

2009年度 第3回 イノベーション推進事業（産業技術実用化開発助成事業）

申請者名	助成事業の名称	助成事業の概要
日立マクセル株式会社	通信・医療等ウェアラブル機器用コイン形リチウムイオン電池開発	φ20mm以下のコイン形リチウムイオン電池の開発により、BAN(ボディーエリアネットワーク)を例とする通信・医療等ウェアラブル機器の発展を促す。コイン形リチウムイオン電池については電極作製技術の開発、電池設計、電池試作、電池評価を行う。
株式会社アルバック	全固体薄膜リチウム二次電池の低コスト化技術の開発	全固体薄膜リチウム二次電池は薄膜形成技術を用いて製造する。同電池の量産に必要な製造装置群、成膜プロセス、材料、評価技術を一貫技術として提供するが、市場で受け入れられるためにはさらなる低コスト化が必須となるため、本事業では必要な技術を開発する。
住友ベークライト株式会社	パワーツール用途向けリチウムイオン二次電池用樹脂系炭素負極材料の実用化開発	原料樹脂組成物を分子設計することにより、パワーツール用途リチウムイオン二次電池用炭素負極材料の重要な特性である出力密度、サイクル特性を向上させた樹脂系炭素負極材料を開発した。本助成事業では、開発材の量産安定化を行い、駆動時の大きな力、急速充電性が向上したオンサイト設備、器具用途の電池開発に貢献する。
株式会社 東芝	定置型蓄電システム向けリチウムイオン二次電池の開発	太陽光発電等の再生可能エネルギーの出力変動抑制や、系統連系された大容量電力システムへの適用が期待される蓄電システムのコアとなる定置用のリチウムイオン二次電池において、チタン酸リチウム負極の特徴を活かして大容量・高安全性・長寿命・高入出力特性等の性能を改善し、実用化へ繋げる。
日立マクセル株式会社	ラミネート封止電池を用いた産業用中型電池システムの開発	申請者の民生用リチウムイオン電池技術をベースに10Ahの比較的大きな電気を有する中型電池の安全性や信頼性を改善する技術を確認し、この電池を直列、並列に複数個組み合わせることにより、所望の容量・出力の電池システムを構築することを目指す。想定する用途は電動バイク、小型建設用機械、ロボット、無人搬送機、バックアップ等。